

TOTO

手すり 樹脂被覆タイプ / ステンレスタイプ T112型・T113型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1. 安全上の注意(安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。



は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。



は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

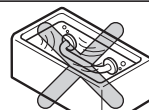
警告



禁止

屋外や水没する場所に取り付けない

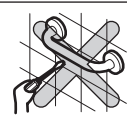
手すりの破損や脱落により使用される方が転倒し、けがをします。



分解禁止

修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わない

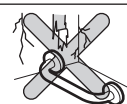
手すりの破損や脱落により使用される方が転倒し、けがをします。



必ず実行

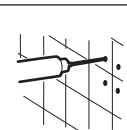
必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける

土壁・石こうボード壁などの強度のない壁に直接取り付けると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをします。



浴室などの水まわりに使用される際は、取り付けの穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布する

シーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをします。



必ず当社指定の固定金具を使用する

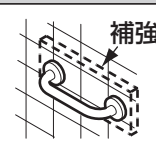
当社指定の固定金具を使用しないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをします。



警告

十分な下地の厚さ、および補強があることを確認し、指定の取付方法で取り付ける

下地に十分な厚さ・補強がなく、各下地の指定取付方法を守らないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをします。



必ず実行

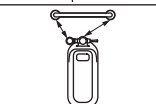
取り付け完了後、手すりにガタツキがないことを確認する
手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをします。



浴室洗い場用手すり型は取り付け方向を確認する
イラストの向き以外で取り付けると、身体の一部(首など)が手すりとの壁の間へ挟まれてけがをします。



和風便器用手すりは周辺の固定物との空間、設置位置を確認する
身体の一部(首など)が手すりとの固定物の間へ挟まれてけがをします。



2-1. 取り付け前に

取り付け前の注意

- 手すりを取り付ける壁に **十分な強度がある** ことを確認してください。
- 光電センサー付き商品と手すりを組み合わせる場合には、**センサーが手すりを感知しない** ように取り付けてください。
光電センサー付き商品と手すり取付位置は光電センサー付き商品の説明書またはカタログなどを参照してください。
- 取付方法は **建物の構造に応じて適切な方法を選んで** ください。
手すりは、手すり本体と壁(床)への固定金具が別々の品番になっていますので、壁の構造に応じて別途固定金具をご注文ください。
固定金具必要セット数は「**3** 固定金具(別売品)」を参照してください。
※掲載以外の取付方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。
- 手すりの取付位置はカタログなどを参照してください。

2-2. 取り付け前に

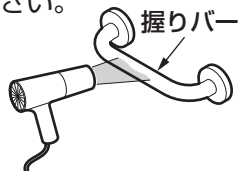
樹脂被覆タイプの握りバーについて

- 樹脂被覆タイプの握りバー表面に傷を入れると補修できませんので、取り扱いには注意してください。
- 樹脂被覆タイプの握りバー表面は軟質樹脂のため、工具などが握りバー表面に当たると、握りバー表面にへこみが発生することがあります。その場合は下記要領にて修正してください。

〈修正方法〉ヘアドライヤーにてへこみ部分に2~3分程度熱風を当てる。
 ※へこみの程度により熱風を当てる時間が変わりますので、へこみの復元状態を見ながら修正してください。

注意

樹脂被覆タイプの握りバー表面の軟質樹脂に熱風を当て過ぎないようにしてください。軟質樹脂部が焼けたり、変色したりすることがあります。



3-1. 固定金具 (別売品)

〈固定金具一覧表〉

(単位：mm)

品番	名称	形状	セット内訳
T110D11	取付プレート	100×100×t6 M6 φ8	固定箇所：1カ所分 ・取付プレート/1枚
T110D62	取付プレート	260 φ8 M6 t6 100	固定箇所：上下2カ所分 ・取付プレート/1枚
T110D41	溶接セット	M6×60	固定箇所：1カ所分 ・長ねじボルト/4本 ・座金/4個 ・ナット/8個
T110D42	埋め込みセット	M6×60 M6×50	固定箇所：1カ所分 ・長ねじボルト/4本 ・座金/4個・ナット/8個 ・アンカーボルト/4本

〈固定金具一覧表〉

(単位：mm)

品番	名称	形状	セット内訳
T110D43	挟み込みセット	M6×150	固定箇所：1カ所分 ・長ねじボルト/4本 ・座金/8個 ・ナット/12個
T110D37	軽量鉄骨用取付金具	t=3.2 150 250 φ4×16	固定箇所：1カ所分 ・取付金具/1個 ・ドリルねじ/10本
T110D36	軽量鉄骨用取付金具	t=3.2 150 340 250 φ4×16	固定箇所：上下2カ所分 ・取付金具/1個 ・ドリルねじ/10本
T110D44	ボルトセット (軽量鉄骨用)	M6×50	固定箇所：1カ所分 ・ボルト/4本 ・座金/4個
T110D45	ドリルねじセット (軽量鉄骨用)	φ5×45	固定箇所：1カ所分 ・ドリルねじ/4本 ・座金/4個
T110D46	メカナットセット (軽量鉄骨用)	M6 M6×50	固定箇所：1カ所分 ・メカナット/4個 ・ボルト/4本 ・座金/4個
T110D3R (L=85) T110D18R (L=105)	アンカーボルト	L M6	固定箇所：1カ所分 ・アンカーボルト/4本
T110D15 (L=70) T110D16 (L=50) T110D23 (L=33)	コーチねじ	L φ6	固定箇所：1カ所分 ・コーチねじ/4本 ・座金/4個
T110D22R	挟み込み金具 (厚さ40mm トイレブス後付け用)	樹脂製パイプ φ13 M6×55 外側のボルト穴を使用	固定箇所：1カ所分 ・取付プレート/1枚 ・ボルト/4本 ・座金・ナット・樹脂製パイプ/各4個
T110D26	樹脂プラグ	φ8×40	固定箇所：5カ所分 ・樹脂プラグ/20個
T110D34 (L=50) T110D35 (L=30)	ハンガーボルト固定	ハンガーボルト φ6×L M6×11	固定箇所：1カ所分 ・ハンガーボルト/4本 ・座金・ナット/各4個

3-2. 固定金具（別売品）

〈固定金具・現場調達部品必要個数一覧表〉

※ ●は現場調達部品です。パイプは金属製パイプ(φ13.8 t2)を示しています。工具店、ホームセンターなどでお買い求めください。なお、パイプの長さは壁の厚さを考慮してご用意ください。

※「—」は取付不可の場合

注1：[GL工法の場合]GL厚50mm以下の場合のみ使用できます。

注2：[コンクリートブロック下地の場合]コンクリートブロック裏面から壁仕上げ面までの厚さが125mm以下の場合のみ使用できます。

注3：補強木の厚さについては「Z-3」(P.10) **注意**」をご参照ください。

注4：対応できるトイレブースは厚さ40mm、ペーパーハニカム、メラミンもしくはポリエステル化粧板仕様相当です。

注5：トイレブースの厚さ30mm以上の場合のみ使用できます。

注6：T110D26(樹脂プラグ20個入り)は、ねじの本数に応じてご発注ください。ねじの本数はI型の場合は8本、L型の場合は12本です。

注7：中間支持部には、施工が簡単なハンガーボルトをご使用ください。コーチねじを使用した場合、ドライバーとカバーが干渉し施工が困難なため、カバーを傷つけるおそれがあります。

注8：壁仕上げ面の厚さが15mm以下の場合、T110D23も使用可能です。

注9：壁仕上げ面の厚さが15mm以下の場合、T110D35も使用可能です。

注10：中間支持部には、ボルトをご使用ください。ドリルねじを使用した場合、ドライバーとカバーが干渉し施工が困難なため、カバーを傷つけるおそれがあります。

注11：床固定用の固定金具はアンカーボルト固定(コンクリート床)の場合で示しています。床が木下地の場合は床固定用のT110D3R(アンカーボルト固定)をT110D15(コーチねじ固定)に変更してください。なお、木下地の場合は60mm以上の補強が必要です。

品名	下地（取付方法）	コンクリート下地・GL工法 （取付プレート埋め込み固定）注1	コンクリート下地 （アンカーボルト固定）	コンクリート下地・コンクリート ブロック下地（プラグ固定）	木下地・コンクリートブロック下地 （取付プレート挟み込み固定）注2	木下地（コーチねじ固定）注3
① 多用途用手すり型		T110D11×2、T110D42×2	T110D3R×2	T110D16×2、T110D26 注6	T110D11×2、T110D43×2	T110D16×2 注8
② 多用途用手すりL型（T112CL9、T113BL9）		T110D11×3、T110D42×3	T110D3R×3	T110D16×2、T110D34×1 注7 T110D26 注6	T110D11×3、T110D43×3	T110D16×2 注8、T110D34×1 注7注9
③ 腰掛便器用手すりL型 （T112CL10、T113BL10）		T110D11×3、T110D42×3	T110D3R×3	T110D16×2、T110D34×1 注7 T110D26 注6	T110D11×3、T110D43×3	T110D16×2 注8、T110D34×1 注7注9
④ 腰掛便器用手すりL型 （T112CL11・CL12、T113BL11・BL12）		T110D11×3、T110D42×3	T110D3R×3	—	T110D11×3、T110D43×3	T110D15×3
⑤ 腰掛便器用手すりP型 （T112CP21・CP22、T113BP21・BP22）注11		T110D62×1、T110D42×2 T110D3R×1	T110D3R×3	—	T110D62×1、T110D43×2 T110D3R×1	T110D15×2、T110D3R×1
⑥ 腰掛便器用手すりP型（T112CP26・CP27） 壁掛洗面器用手すり（T112CP31）		T110D62×1、T110D42×2	T110D3R×2	—	T110D62×1、T110D43×2	T110D15×2
⑦ 和風便器用手すり （T112CW1、T113BW1）		—	T110D3R×2	—	—	T110D15×2
⑧ 小便器用手すり （T112CU22、T113BU22）		T110D62×2、T110D42×4	T110D3R×4	—	T110D62×2、T110D43×4	T110D15×4
⑨ 壁掛洗面器用手すり （T112CP23、T113BP23）注11		T110D62×1、T110D42×2 T110D3R×1	T110D3R×3	—	T110D62×1、T110D43×2 T110D3R×1	T110D15×2、T110D3R×1
⑩ 壁掛洗面器用手すり （T112CP28）		T110D11×1、T110D62×1 T110D42×3	T110D3R×3	—	T110D11×1、T110D62×1 T110D43×3	T110D15×3
⑪ 浴室洗い場用手すり型（T112CD6、T113BD6）		T110D11×2、T110D42×2	T110D3R×2	—	T110D11×2、T110D43×2	T110D15×2

3-3. 固定金具 (別売品)

	GL工法 (アンカーボルト+パイプ使用固定) 注1	軽量鉄骨下地(ボルト固定)	軽量鉄骨下地(ドリルねじ固定)	軽量鉄骨下地(メカナット固定)	軽量鉄骨下地 (取付プレート溶接固定)	トイレブース (挟み込み固定) 注4	トイレブース (コーチねじ固定) 注5
①	T110D18R×2、●パイプ×8	T110D37×2、T110D44×2	T110D37×2、T110D45×2	T110D37×2、T110D46×2	T110D11×2、T110D41×2	T110D22R×2	T110D23×2
②	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D37×3、T110D44×3	T110D37×3、T110D45×2 T110D44×1 注10	T110D37×3、T110D46×3	T110D11×3、T110D41×3	T110D22R×3	T110D23×2 T110D35×1 注7
③	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D37×3、T110D44×3	T110D37×3、T110D45×2 T110D44×1 注10	T110D37×3、T110D46×3	T110D11×3、T110D41×3	T110D22R×3	T110D23×2 T110D35×1 注7
④	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D37×3、T110D44×3	T110D37×3、T110D45×3	T110D37×3、T110D46×3	T110D11×3、T110D41×3	—	—
⑤	T110D18R×2、T110D3R×1 ●パイプ×8	T110D36×1、T110D44×2 T110D3R×1	T110D36×1、T110D45×2 T110D3R×1	T110D36×1、T110D46×2 T110D3R×1	T110D62×1、T110D41×2 T110D3R×1	—	—
⑥	T110D18R×2、●パイプ×8	T110D36×1、T110D44×2	T110D36×1、T110D45×2	T110D36×1、T110D46×2	T110D62×1、T110D41×2	—	—
⑦	—	—	—	—	—	—	—
⑧	T110D18R×4、●パイプ×16	T110D36×2、T110D44×4	T110D36×2、T110D45×4	T110D36×2、T110D46×4	T110D62×2、T110D41×4	—	—
⑨	T110D18R×2、T110D3R×1 ●パイプ×8	T110D36×1、T110D44×2 T110D3R×1	T110D36×1、T110D45×2 T110D3R×1	T110D36×1、T110D46×2 T110D3R×1	T110D62×1、T110D41×2 T110D3R×1	—	—
⑩	T110D18R×3、●パイプ×12	T110D36×1、T110D37×1 T110D44×3	T110D36×1、T110D37×1 T110D45×3	T110D36×1、T110D37×1 T110D46×3	T110D11×1、T110D62×1 T110D41×3	—	—
⑪	T110D18R×2、●パイプ×8	T110D37×2、T110D44×2	T110D37×2、T110D45×2	T110D37×2、T110D46×2	T110D11×2、T110D41×2	—	—

4-1. 完成図

※図面は樹脂被覆タイプT112型、() 寸法はステンスタイプT113型の場合

(単位: mm)

多用途用手すり I 型					多用途用手すり L 型				
L	樹脂被覆	質量	ステンレス	質量	樹脂被覆	質量	ステンレス	質量	
300	T112C3	0.7kg	T113B3	0.7kg	T112CL9	2.3kg	T113BL9	2.0kg	
400	T112C4	0.8kg	T113B4	0.7kg					
500	T112C5	0.9kg	T113B5	0.8kg					
600	T112C6	1.1kg	T113B6	0.9kg					
800	T112C8	1.3kg	T113B8	1.1kg					
1000	T112C10	1.6kg	T113B10	1.3kg					

壁面

90

34

86 (85)

壁面

600

120

34

86 (85)

壁面

700

18

34 (27)

86 (85)

中間支持部: φ34 (φ27)

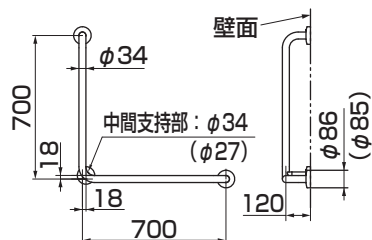
※T113BL9の場合
コーナー部のカバーはφ84

4-2. 完成図

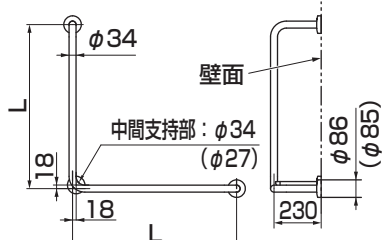
※図面は樹脂被覆タイプT112型、() 寸法はステンレスタイプT113型の場合

(単位: mm)

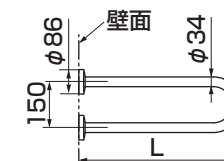
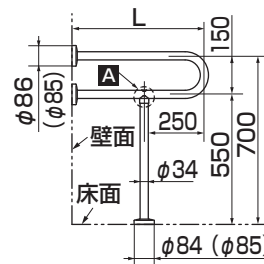
腰掛便器用手すりL型				腰掛便器用手すりP型							
樹脂被覆	質量	ステンレス	質量	L	樹脂被覆	質量	ステンレス	質量	L	樹脂被覆	質量
T112CL10	2.4kg	T113BL10	2.0kg	700	T112CL12	3.0kg	T113BL12	2.3kg	550	T112CP21	2.5kg
				800	T112CL11	3.1kg	T113BL11	2.5kg	700	T112CP22	2.9kg
										T113BP21	2.4kg
										T113BP22	2.7kg
										T112CP26	1.6kg
										T112CP27	2.1kg



※T113BL10の場合
コーナー部のカバーはφ84

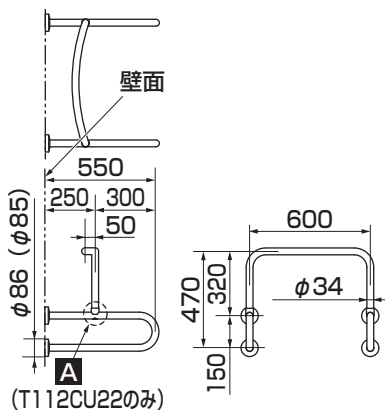


※T113BL11・12の場合
コーナー部のカバーはφ84



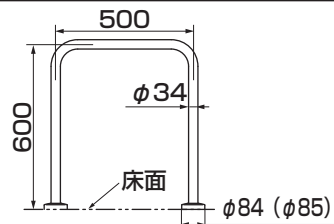
小便器用手すり

樹脂被覆	質量
T112CU22	5.4kg
ステンレス	質量
T113BU22	4.6kg



和風便器用手すり

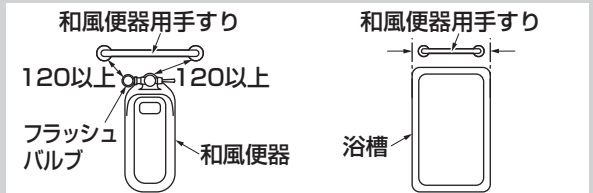
樹脂被覆	質量
T112CW1	2.4kg
ステンレス	質量
T113BW1	2.1kg



警告

和風便器 取り付けの際 手すりとフラッシュバルブの空間を120mm以上確保すること

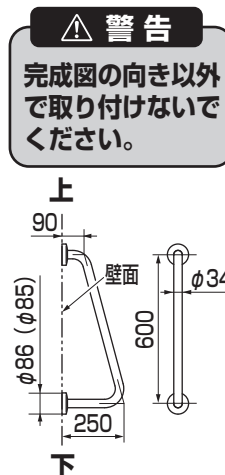
浴槽 取り付けの際 手すりを浴槽の両側面の延長線を120mm以上確保すること



上記を満たさない場合、身体の一部(首など)が手すり
と固定物の間へ挟まれてけがをするおそれがあります。

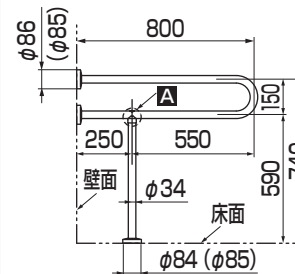
浴室洗い場用手すりI型

樹脂被覆	質量
T112CD6	1.3kg
ステンレス	質量
T113BD6	1.2kg

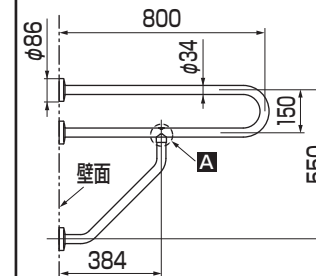


壁掛洗面器用手すり

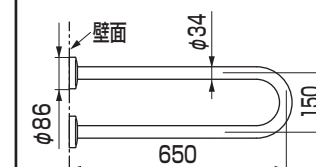
樹脂被覆	質量
T112CP23	3.3kg
ステンレス	質量
T113BP23	2.9kg



樹脂被覆	質量
T112CP28	3.2kg

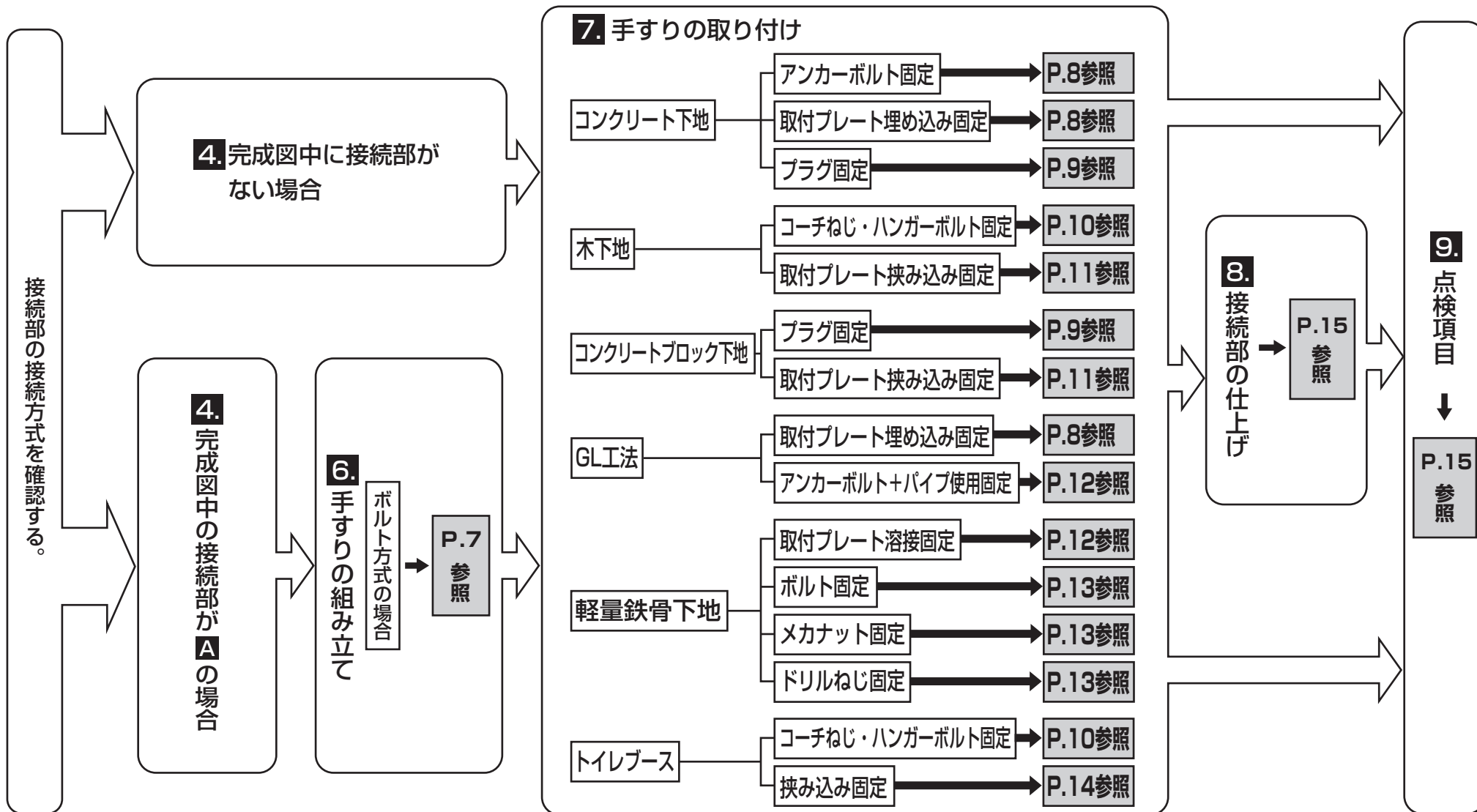


樹脂被覆	質量
T112CP31	2.0kg



5. 施工の流れ

- T112CP21・CP22・CP23・CP28・CU22およびT113BP21・BP22・BP23は、所定の形状に仮締めにして組み立て、取り付けたあと、本締めをしてください。
- 手すりの組み立て時に使用するねじ・ボルト類が梱包箱に入っていることを確認してください。(組み立てのある手すりのみ)
※手すりを壁(床)に取り付ける際の固定金具は別売りです。



6. 手すりの組み立て

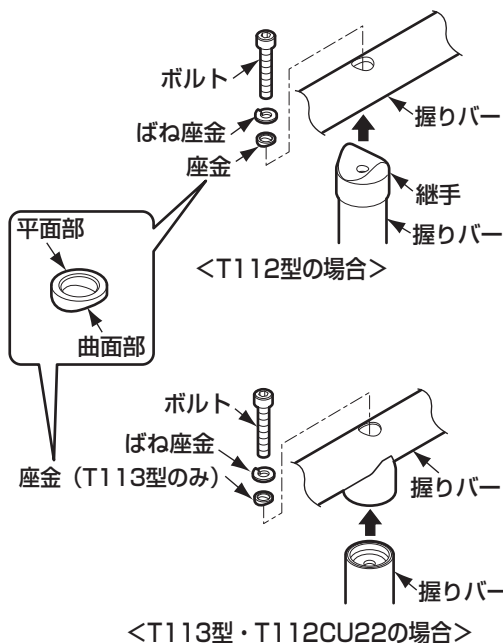
ボルト方式の場合

[4]完成図のAの場合]

右図の順序のように、ばね座金、座金にボルトを通して、六角スパナにて握りバー同士を仮締めする。

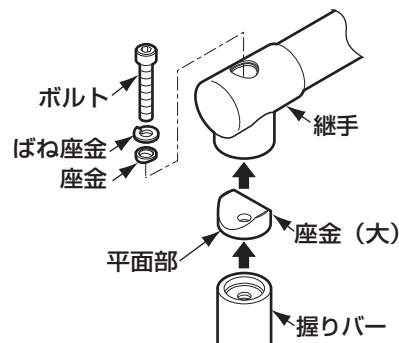
注意

- 座金には平面部と曲面部がありますので、平面部をばね座金側としてください。座金を逆に取り付けると、手すりにゆりみが発生する場合があります。(T112CU22の場合は座金は使用しません)
- 手すりを取り付ける前に本締めを行わないでください。本締めをしたあとに手すりを取り付けると、手すりが取り付けられない場合があります。



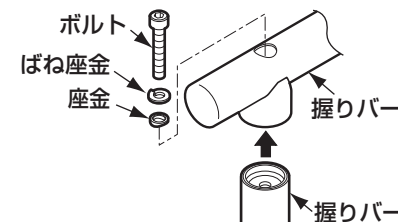
[T112型の特注品・イーजीオーダー品の場合]

- ①継手に座金（大）、握りバーの順序で押し込む。
※座金（大）は平面部が握りバーと接するように取り付けてください。
- ②ボルトの取り付けは「4. 完成図中のA部」と同じ要領にて取り付け。



[T113型の特注品・イーजीオーダー品の場合]

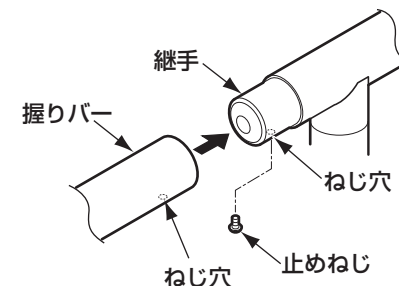
右図の順序のように、ばね座金、座金にボルトを通して、六角スパナにて握りバー同士を仮締めする。



止めねじ方式の場合

[T112型、T113型の特注品・イーजीオーダー品の場合]

- ①継手のねじ穴に握りバーのねじ穴が合うように握りバーを押し込む。
- ②六角スパナにて止めねじをしっかり止める。

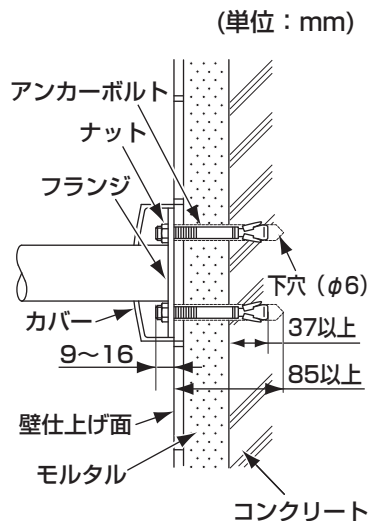


7-1. 手すりの取り付け

コンクリート下地：アンカーボルト固定の場合

固定金具品番 T110D3R

- ①心出しをしたあと、 $\phi 6$ mm、深さ85mm以上のアンカーボルトの下穴をあける。**注1**
- ②ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、取付プレートの取付穴に通し、下穴に軽く打ち込む。**注2**
- ③アンカーボルトのナットを締め付ける。
(これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります)
- ④アンカーボルトのナットを外す。
- ⑤アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整する。**注3**
- ⑥フランジの取付穴にアンカーボルトを通し、ナットで締め付ける。
- ⑦カバーを仕上げ面に押し付ける。



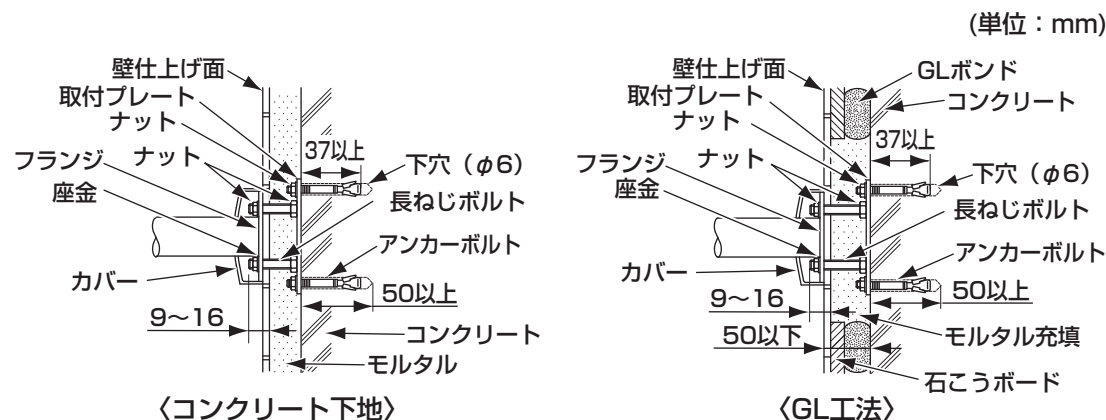
注意

- 注1**：コンクリートに $\phi 6$ mm、深さ85mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
- 注2**：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。
- 注3**：アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整してください。

コンクリート下地・GL工法：取付プレート埋め込み固定の場合

固定金具品番 T110D11、T110D62、T110D42

- ①心出しをしたあと、 $\phi 6$ mm、深さ50mm以上のアンカーボルトの下穴をあける。**注1**
- ②ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、取付プレートの取付穴に通し、下穴に軽く打ち込む。**注2**
- ③アンカーボルトのナットを締め付ける。
- ④取付プレートのボルト穴に、長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。**注4**
- ⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整する。**注3・4**
- ⑥フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。
- ⑦カバーを仕上げ面に押し付ける。



注意

- 注1**：コンクリートに $\phi 6$ mm、深さ50mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。
- 注2**：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。
- 注3**：ボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整してください。
- 注4**：ボルトの長さが短い場合は、M6長ねじボルトを現場調達してください。

7-2. 手すりの取り付け

コンクリート下地・コンクリートブロック下地：プラグ固定の場合

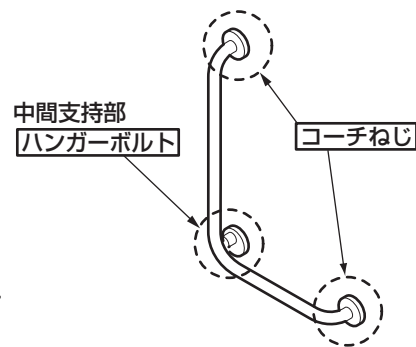
固定金具品番 T110D16、T110D26、T110D34

注意

多用途手すりI型、多用途手すりL型、腰掛便器用手すりL型（前出寸法120mm）のみ取り付け可能です。

多用途手すりL型、腰掛便器用手すりL型（前出寸法120mm）の中間支持部には、施工が簡単なハンガーボルトを使用します。

多用途手すりI型は、ハンガーボルトを使用しませんので、施工手順は①②⑧⑩となります。



- ①心出しをしたあと、φ8mm、深さ60mm以上の樹脂プラグの下穴をあける。**注1**
- ②樹脂プラグを下穴に軽く打ち込む。
- ③ハンガーボルトに同梱のナット（2個）をダブルナットで固定する（下図参照）。



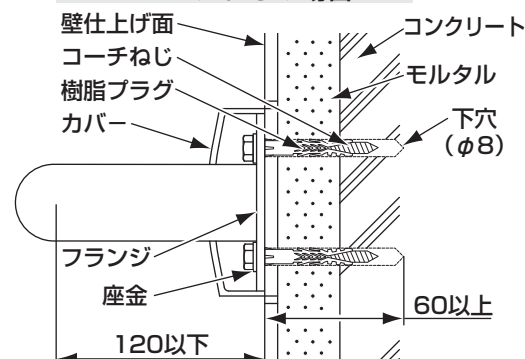
ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを逆回しして締め付け、固定する。

- ④③で固定したダブルナットを工具で回し、手すりの中間支持部の樹脂プラグにハンガーボルトをねじ込む。
- ⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が9～16mmの範囲になるように調整する。**注2**
- ⑥ダブルナットを取り外す。
- ⑦手すり中間支持部のフランジの取付穴にハンガーボルトを通し、座金、ナットで仮締めする。
- ⑧コーチねじに座金を通し、フランジの取付穴より取り付ける。
- ⑨ハンガーボルトを仮締めしているナットを本締めする。
- ⑩カバーを仕上げ面に押し付ける。

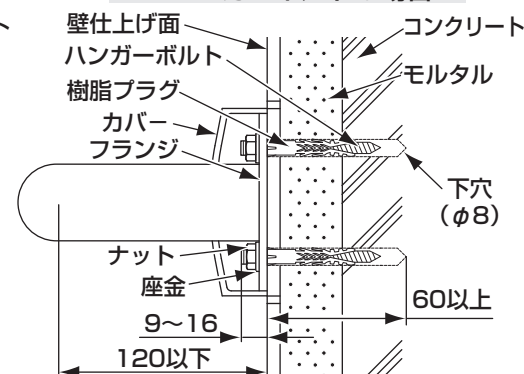
（単位：mm）

〈コンクリート下地〉

・コーチねじの場合

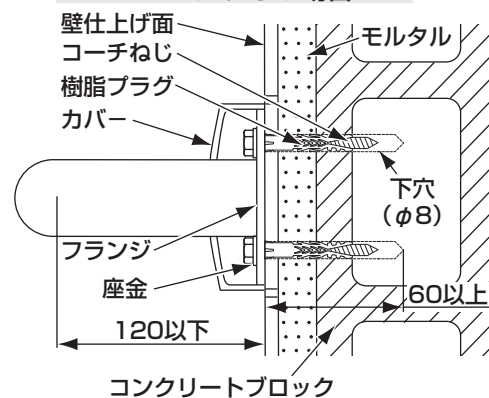


・ハンガーボルトの場合

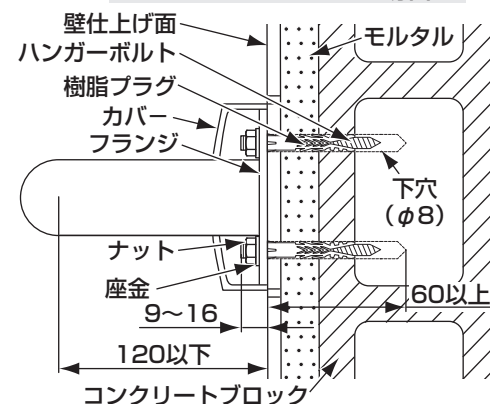


〈コンクリートブロック下地〉

・コーチねじの場合



・ハンガーボルトの場合



注意

注1：コンクリートにφ8mm、深さ60mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

注2：ハンガーボルトの出代が壁仕上げ面より9～12mmの範囲となるように調整してください。

7-3. 手すりの取り付け

木下地・トイレブース：コーチねじ・ハンガーボルト固定の場合

固定金具品番	木下地 : T110D15、T110D16、T110D34
	トイレブース : T110D23、T110D35

多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型（前出寸法120mm）の中間支持部には、施工が簡単なハンガーボルトを使用します。

多用途用手すりI型は、ハンガーボルトを使用しませんので、施工手順は①②⑧⑩となります。

①事前に手すり取付部に補強木を取り付ける。

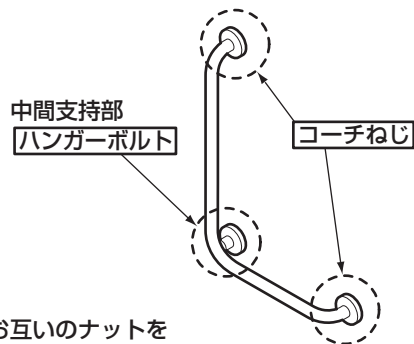
注1

②心出しをしたあと、φ4mmのコーチねじとハンガーボルトの下穴をあける。
（タイルの場合は、タイル部のみφ6.5mmの通し穴をあける）

③ハンガーボルトに同梱のナット（2個）をダブルナットで固定する（下図参照）。



ナットを2個ねじ込み、お互いのナットを逆回して締め付け、固定する。



④③で固定したダブルナットを工具で回し、手すりの中間支持部の下穴にハンガーボルトをねじ込む。

⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が9～16mmの範囲になるように調整する。**注2**

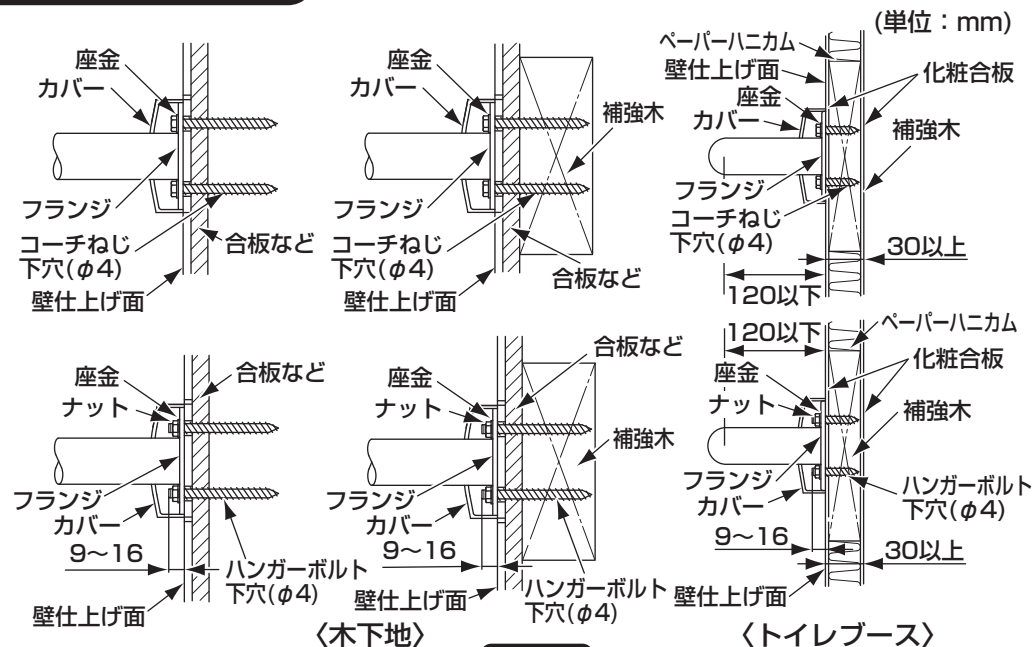
⑥ダブルナットを取り外す。

⑦手すり中間支持部のフランジの取付穴にハンガーボルトを通し、座金、ナットで仮締めする。

⑧コーチねじに座金を通し、フランジの取付穴より取り付ける。

⑨ハンガーボルトの仮締めしているナットを本締めする。

⑩カバーを仕上げ面に押し付ける。



注意

注1：補強木の厚さは手すりの種類により異なります。手すりに応じた補強を行ってください。

下表に適合した厚さの合板または補強木を強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。補強木を取り付けないと、手すりがガタついたり、外れたりすることがあります。

対象商品	合板または補強木の厚さ
・多用途用手すり I型 ・多用途用手すり L型 ・腰掛便器用手すり L型 (T112CL10、T113BL10)	12mm以上 <small>※手すりの前出寸法が120mm以下の場合のみ ※構造用合板（JAS規格品）、または同等以上の下地材に取り付けてください。</small>
・腰掛便器用手すり L型 (T112CL11・CL12、T113BL11・BL12)	30mm以上
・腰掛便器用手すり P型 ・和風便器用手すり ・小便器用手すり ・壁掛洗面器用手すり	60mm以上

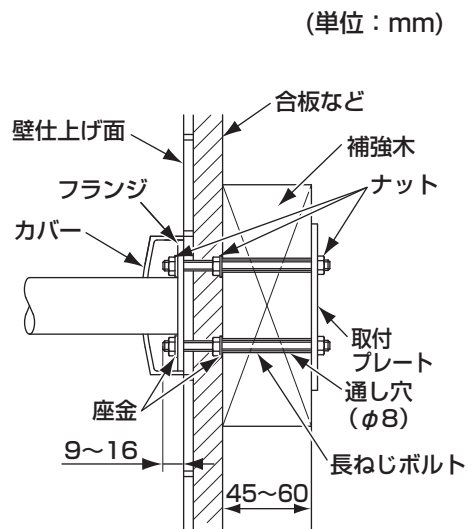
注2：ハンガーボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整してください。

7-4. 手すりの取り付け

木下地：取付プレート挟み込み固定の場合

固定金具品番 T110D11、T110D62、T110D43

- ①事前に手すり取付部に厚さ45～60mmの補強木を取り付ける。
注1
- ②心出しをしたあと、φ8mmの長ねじボルトの通し穴をあける。
- ③取付プレートのボルト穴に長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。
- ④長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁裏側に取付プレートを当て、手すり取付側より座金、ナットで締め付ける。
- ⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整する。
注2・4
- ⑥フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。**注3**
- ⑦カバーを仕上げ面に押し付ける。



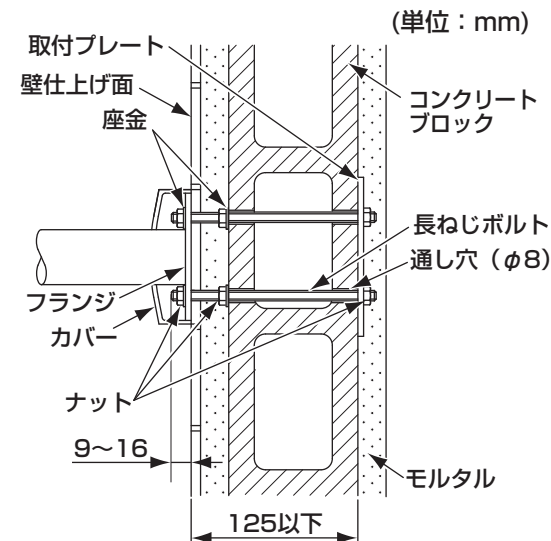
注意

- 注1：厚さ45～60mmの補強木を強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。
- 注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整してください。
- 注3：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。
- 注4：ボルトの長さが短い場合は、M6長ねじボルトを現場調達してください。

コンクリートブロック下地：取付プレート挟み込み固定の場合

固定金具品番 T110D11、T110D62、T110D43

- ①心出しをしたあと、φ8mmの長ねじボルトの通し穴をあける。
注1
- ②取付プレートのボルト穴に長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。
- ③長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁裏側に取付プレートを当て、手すり取付側より座金、ナットで締め付ける。
- ④壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整する。
注2・4
- ⑤フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。**注3**
- ⑥カバーを仕上げ面に押し付ける。



注意

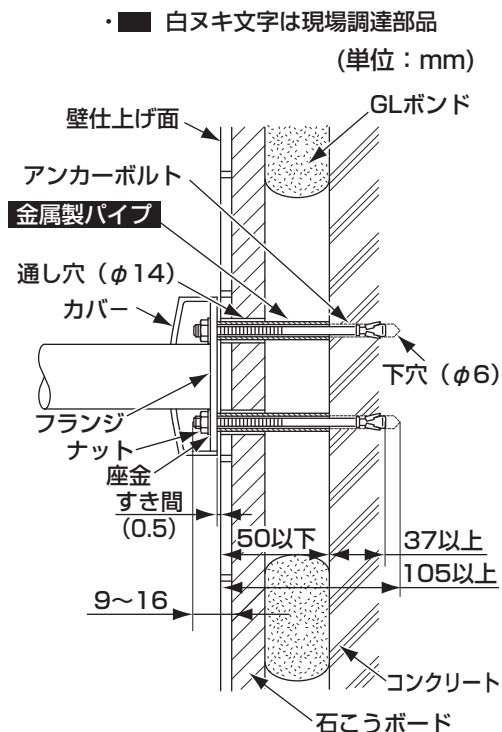
- 注1：空洞部をモルタルなどで埋める必要はありません。
- 注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16mmの範囲となるように調整してください。
- 注3：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。
- 注4：ボルトの長さが短い場合は、M6長ねじボルトを現場調達してください。

7-5. 手すりの取り付け

GL工法：アンカーボルト+パイプ使用固定の場合

固定金具品番	T110D18R	現場調達部品	φ13.8 (t2) 金属製パイプ
--------	----------	--------	-------------------

- ①心出しをしたあと、φ6mm、壁仕上げ面よりの深さ105mm以上のアンカーボルトの下穴をあける。**注1**
- ②石こうボードの部分のみφ14mmの金属製パイプの通し穴をあける。
- ③金属製パイプをコンクリート下地面に当たるまで挿入し、壁仕上げ面より0.5mm程度凸になるようにカットする。
※長さが足りない場合は、座金などを差し込んで調整してください。
- ④ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、金属製パイプに通し、下穴に軽く打ち込む。**注2**
- ⑤アンカーボルトのナットを締め付ける。(これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります)
- ⑥アンカーボルトのナットを外す
- ⑦アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整する。**注3**
- ⑧フランジの取付穴にアンカーボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。
- ⑨カバーを仕上げ面に押し付ける。



注意

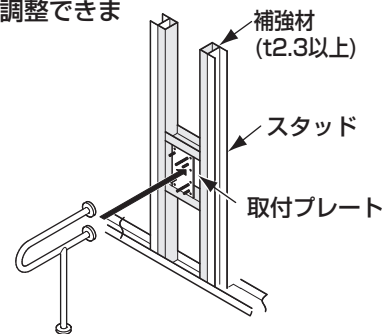
- 注1：コンクリートにφ6mm、深さ105mm以上の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
- 注2：アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は37mm以上となるようにしてください。
- 注3：アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整してください。

軽量鉄骨下地：取付プレート溶接固定の場合

固定金具品番	T110D11、T110D62、T110D41
--------	-------------------------

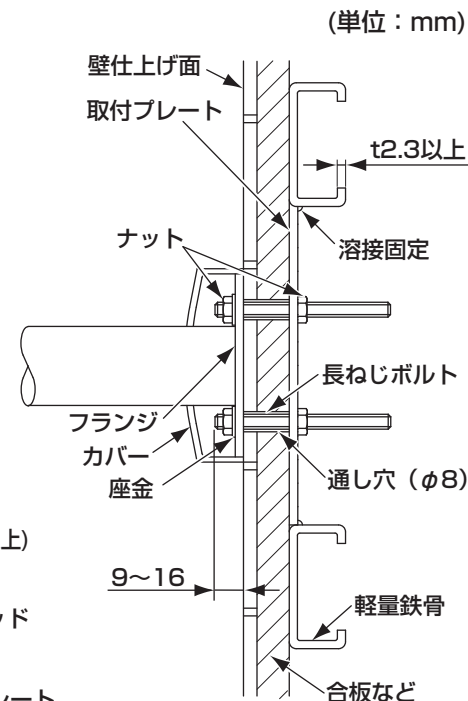
- ①心出しをしながら取付プレートを補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)に溶接固定する。**注1**
- ②取付プレートの穴に、長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整し、壁裏面よりナットで締め付ける。**注2**
- ③壁を仕上げる。
- ④フランジの取付穴に長ねじボルトを通し、座金、ナットで締め付ける。**注3**
- ⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。

※壁仕上げ後、手すりの取付位置は調整できません。



注意

- 注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
- 注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9~16mmの範囲となるように調整してください。
- 注3：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

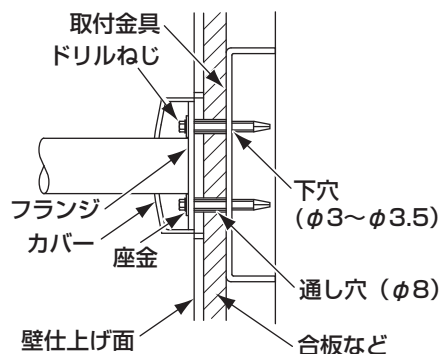


7-6. 手すりの取り付け

軽量鉄骨下地：ドリルねじ固定の場合

固定金具品番 T110D36、T110D37、T110D45

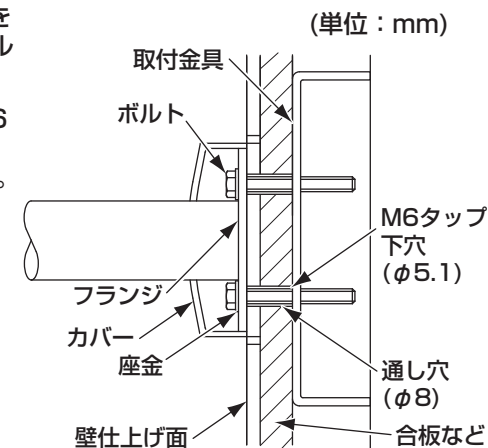
- ①手すり取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、 $\phi 3 \sim 3.5$ mmドリルで下穴をあける。**注2**
- ③仕上げ壁部に $\phi 8$ mm程度のドリルねじの通し穴をあける。
- ④ドリルねじに座金を通し、フランジの取付穴より取り付ける。**注3**
- ⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



軽量鉄骨下地：ボルト固定の場合

固定金具品番 T110D36、T110D37、T110D44

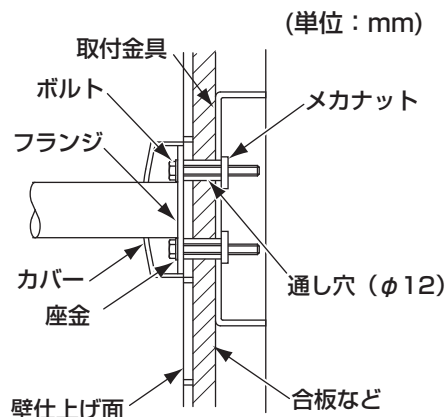
- ①手すり取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、M6タップ加工の下穴 $\phi 5.1$ mmをあける。仕上げ壁部に $\phi 8$ mm程度の通し穴をあける。
- ③軽量鉄骨用取付金具にM6タップ加工を行う。
- ④ボルトに座金を通し、フランジの取付穴より取り付ける。**注3**
- ⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



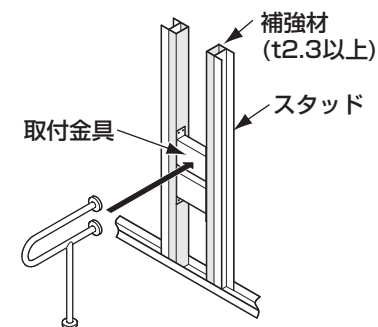
軽量鉄骨下地：メカナット固定の場合

固定金具品番 T110D36、T110D37、T110D46

- ①手すり取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)にドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、メカナットの通し穴 $\phi 12$ mmをあける。
- ③メカナットを通し穴に挿入し、セットする。
- ④ボルトに座金を通し、フランジの取付穴より取り付ける。**注3**
- ⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。



※壁仕上げ後、取付金具の範囲内で手すりの取付位置が調整できます。



注意

- 注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
- 注2：手すりに傷を入れないために、下穴をあけた方が施工がスムーズです。
- 注3：ナットを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

7.7. 手すりの取り付け

トイレブース：挟み込み固定の場合

固定金具品番 T110D22R

注意

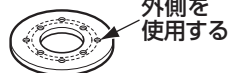
トイレブースは厚み40mmペーパーハニカム、メラミンおよびポリエステル合板仕様相当の場合、多用途用手すり型、多用途用手すりL型、腰掛便器用手すりL型（前出寸法120mm）のみ取り付け可能です。

①心出しをしたあと、φ13mmのパイプの
通り穴をあける。**注1**

②樹脂製パイプを通し穴に挿入する。**注1**
樹脂製パイプはペーパーハニカムなどの
壁に手すりを取り付けた場合に発生する、
壁の座屈を防止するためのパイプですの
で、必ず壁を確認して取り付けください。

③取付プレートの外側のボルト穴に長ねじ
ボルトを最後までねじ込み、ブース裏側
より樹脂製パイプの穴に差し込みながら
あてる。

※取付プレートには外側と内側に4カ所
ずつボルト穴があります。ボルト穴を
確認して取り付けてください。

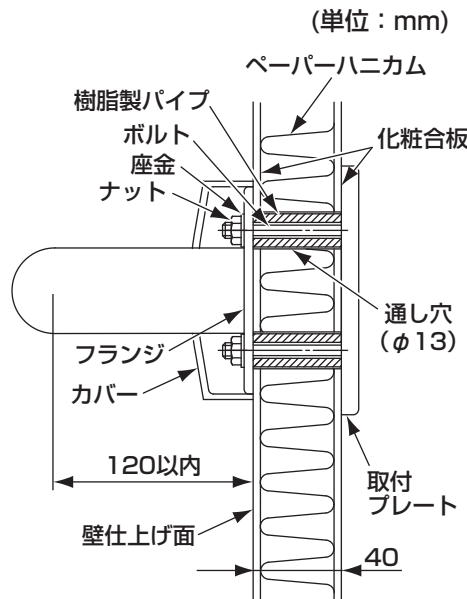


④フランジの取付穴にボルトを通し、座金、
ナットで締め付ける。

⑤カバーを仕上げ面に押し付ける。

注意

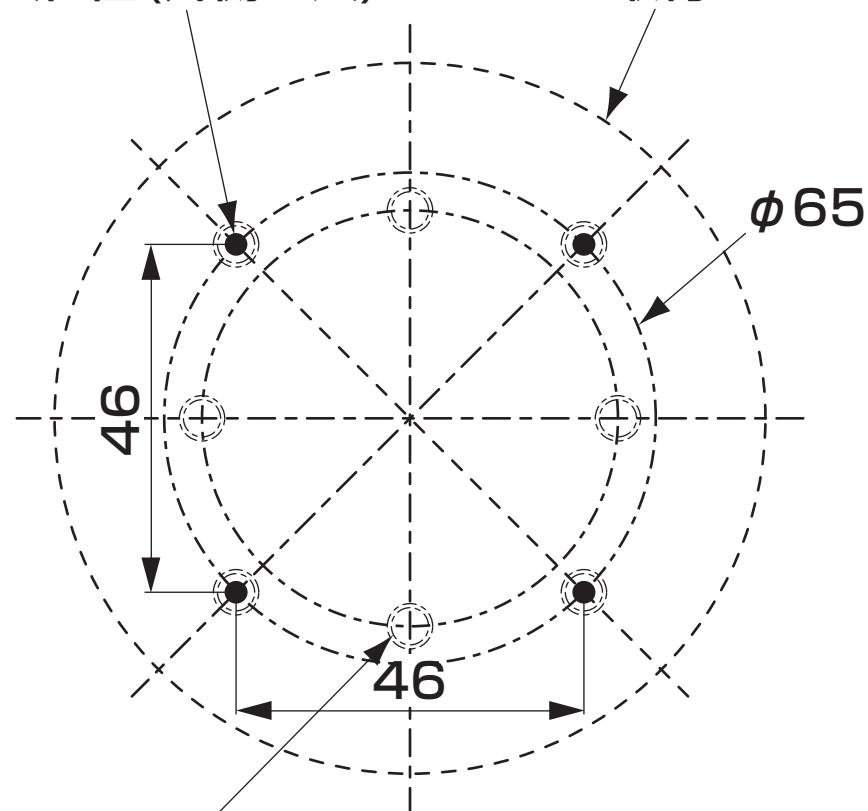
注1：トイレブースに補強木を入れた場合や中空でない堅固な壁の場合、
固定金具に同梱の樹脂製パイプは使用せず、φ8mmのボルトの通
し穴をあけて取り付けください。



固定金具T110D22Rの下穴ガイド

手すり(T112型・T113型)の
取付穴位置(外側の穴)

取付プレート

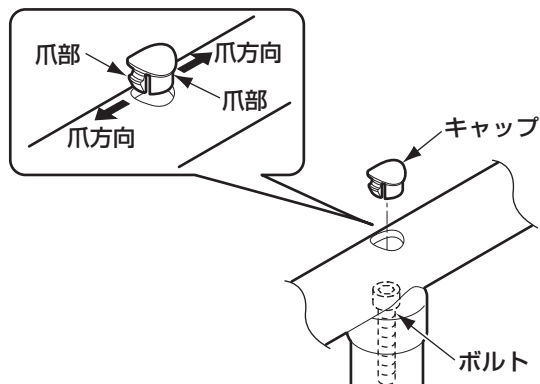


※内側の穴は手すり(T114型)の取付穴位置です
ので、使用しないでください。

※他の施工方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

8. 接続部の仕上げ (ボルト方式の場合)

- ①手すりを取り付けたあと、ボルトを六角スパナにて本締めする。
- ②キャップを取り付ける。

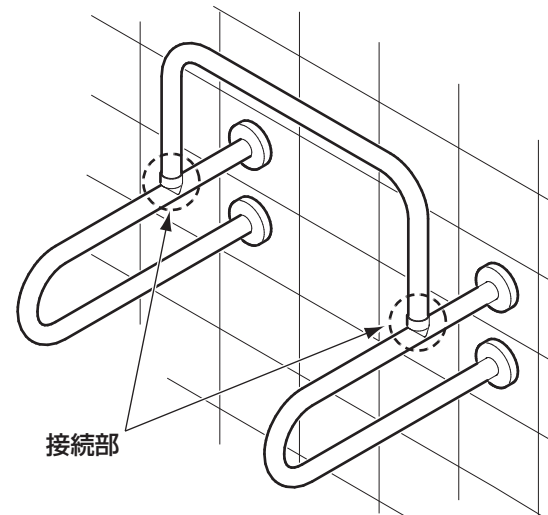


注意

キャップには方向性がありますので、爪が握りバーの軸方向になるように取り付けてください。

9. 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



ガタツキの確認

手すりにガタツキがないか確認してください。

接続部はしっかり組み立てていますか？

- ➡ **6. 手すりの組み立て** 参照
- ➡ **8. 接続部の仕上げ** 参照

手すりは壁にしっかり取り付けられていますか？

- ➡ **7. 手すりの取り付け** 参照

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

下穴ガイド

※壁固定部数に応じて切り取ってご利用ください。

使用上のご注意

必ず製品の下穴位置とガイドの手すり取付穴位置が合うことをご確認頂き、下穴加工を実施ください。

注意



必ず実行

コピーしてご利用される際は、印刷機によって表示内容の大きさが変わることがありますので、寸法確認のうえ、ご使用ください。

